

白い森小国から

「NEW マシンを導入したし、今シーズンは例年以上に気合い入れてレースに挑むぞ!」と意気込んでいたのだが、スケジュールの都合で夏場の2戦に参戦できず…。まあ仕事で忙しいのだから喜ぶべきなのだろうが、走れないのはやはり悲しい(泣)。だから夏休みは思い切り走り回ったのだ!

文/今 修 写真/K-PRODUCTS



耐久レースに挑む姿勢とは?

昨年同様、小国町はお盆前ぐらいから急に暑くなり始めた。昔は7月に入ると暑くなり、お盆が過ぎた頃から日に日に涼しくなっていたものだが、最近では盆近くから夏が始まる感じになったような気がする。そして近年はゲリラ豪雨が各地で頻繁に起き、ここ山形でも今年は被害が出た地域もあった。

幸いにも小国町に被害はなかったが、オフロードコース AREA-D がある地域では少し被害が出た。今年から手掛けているトライアルコースの一部が崩れたり、ダートコースも水が完全に抜け切れてない場所があり一部閉鎖している。おそらくこのゲリラ豪雨は今後も恒例になると思うので、今年の秋にでも対策の工事をしようかと思っている。

少しずつではあるが限られたスペースの中で最高のコースを作って行く AREA-D、是非一度に遊びに来て頂きたい。

さてさて6月の新潟県柏崎サンドレース以降は仕事に追われ、レースに参戦できてない。当初の予定では7月28日に三重県で行われた A.E.S ダートバトルと8月4日長野県で行われた XC ダート、この2レースには参戦する予定だったが、どちらも仕事の都合で参加できなかった…。

しかし A.E.S ダートバトルはチーム k-pro の結城大策君が参戦。3時間の耐久レースの場合、運転技術はもちろんのこと、マシン作りがしっかりしてないと完走は不可能。たとえ壊れていなくても見た目で見分らない金属疲労とか劣化などでレース中に走行不

能となることは良くある。耐久レースの過酷さは世界共通で、それだけに輝ける競技と言えよう。

昨年 XC ダートのシリーズチャンピオンに輝いた結城君は今回もスタートから独走状態。しかし、1時間30分ぐらい経過した頃フロントホーシングが折れて DNF。調子が良かっただけに非常に残念な結果となった。悔しいだろうが、こんなトラブルは日常茶飯事だ。だから耐久レースに参戦している車両のメンテは日頃からかなり気を遣い、また経験値からの予想で壊れる前に部品交換を行う。それぐらいのことを当たり前のようにやっ

ておかないと、上位入賞どころか完走すらできないのだ。

とは言うものの、いくら丈夫に作りしっかりとメンテしたとしても、ドライバーが壊してしまう運転をする場合も少なくはない。ジムニーは悪路における走破性能を追求して開発されたクルマだが、それは日常生活を少し超えた程度。それなのにタイヤが1本埋まるような穴があるところを走ったり、ジャンプしたり、そんな悪路を何時間もカッ飛ばすなんて想定をして作られてはいない。

だからそんなシチュエーションに見合ったパーツの交換が必要だし、メンテナンスは絶



右がブレイクスルー安蘇氏、左が俺! k-pro 全商品取り扱い、何でも相談に乗ってくれる頼れる SHOP です。

対条件となるのだ。パーツに関しても同じように見えるパーツでも、ひとつひとつ強度や耐久性、特性などは大きく異なる。作り手がどのステージまでを意識して作っているのか、また自らの経験値でも変わってくると思う。

ジムニー用ターボの謎!?

先日 k-pro から販売した【リトルタイフーン (JB23 用タービン)】の話だが、一般的な強化タービンやビックタービン…簡単に言うとノーマルよりも大きいタービンなどは、タービン屋さんに依頼すれば簡単に作ってくれるだろう。しかしそのタービンをジムニーに取り付けた場合、はたして速く走れるのか? ほとんどのユーザーは外径の大きいタイヤを履いているが排気量は 660ccだ。こういった事を考えると、ジムニー専用のタービンが絶対条件となってくるのは当然の事。

よく雑誌等で「このタービンは〇〇馬力です」とか書いているのを見かける。しかし、オレは何馬力であろうが「だから何?」って感じ。馬力はあまり気にしていない。重視しているのは出足と加速性能だ。660cc の小さい排気量に外径の大きなタイヤを履かせた4駆の軽自動車が100mを何秒で走れるか? それを一番重視している。だからオレ的に大きいタービンによるトップスピードの追求はちょっと違うのだ。いくらタービンを知り尽くした工場でもジムニーの本質を

知らなければ、こちらの言わんとしている事が今一歩伝わりにくい。かゆいところに手が届かないのである。

このリトルタイフーンは k-pro のオリジナル商品。試作そして走行テストを繰り返してリリースしたのだが、製作の全てを請け負ったのは九州のジムニー SHOP『ブレイクスルー』だ。ブレイクスルーの代表作と言えば、10年以上の販売実績があるお馴染みのクローリングターボ。オーナーの安蘇氏は国内&海外レース経験の持ち主であり、独自に得たノウハウを元にジムニー専用に設計されているのだ。

オレが安蘇氏と初めて出会ったのは7〜8年前のこと。タービンの話の中で「ジムニーのタービンを手掛けて今までの自分の中の常識が全て覆された!」というひと言が全てを物語っており、キーワードとして今でも頭に残っている。

耐久レースと強化品

自分もレースに参戦しているのはレースが好きだからだけじゃなく、やはりもっとジムニーの事を知りたいからでもある。耐久レースを始めた頃は強化品と謳われているパーツを装着してレースに参戦したが、ものの見事に壊れた。『強化品がなぜこんなに簡単に壊れるのだろうか?』謎だった。何度交換しても壊れるので製造元に電話した時が

ある、そしたら答えは「そんな使い方を想定して作っていませんから壊れます」だった。

また8時間耐久に参戦した時は自社パーツの23用強化アームが3本も折れた。あの時は正直壊れた事にガッカリし、恥ずかしかった。

強化品として販売されているパーツの中で、絶対に壊れてはならないパーツと、ある程度の方まで耐え、それ以上になると壊れるように考えて作られているパーツがある。パーツの強度はその単体のパーツの強度だけ考えればよいのではなく、連動しているパーツ全てのバランスを考えて作らないと致命傷になる事が多々あるのだ。そんな事も実際に走って壊してみないとわからないこと。おかげで自社製 JB23 アームは改良してから現在まで1本も折れる事はなくなった。

オフロード三昧でヒントを得る!

今年のお盆休み3日間は毎日 AREA-D で朝から晩までオフロード三昧! 最近ダートばかりだったのでトライアルメインで走り回っていたが3回も横転…。やはりやっていると感覚が鈍るっていうか、コケるまで攻めたいというか(笑)。そして夜は仲間達と BBQ & キャンプを楽しんだ。残り少ない夏を楽しみながらジムニーと触れ合い、ジムニーからそして土から、また新たなヒント、楽しいことを教えてもらっているのだ!



お馴染みの AREA-D。ダートに飽きたらモーグル、そしてトライアルと楽しめるオフロードコースです。それほど広くはないけど十分楽しめるよう考えて手を加えております。トイレ・洗車場・休憩場完備。

